

宮城県商工会 地区中小企業景況調査報告書

平成24年10月～12月期

目 次

1. 県下産業全体の景況	2
(1) 主要景況項目のあらまし	2
(2) 全国・東北ブロックおよび本県景況のあらまし	3
(3) 今後の見通しについて	4
2. 県下産業別の景況	5
(1) 製造業の動向	5
(2) 建設業の動向	8
(3) 小売業の動向	11
(4) サービス業の動向	14

平成25年1月

宮城県商工会連合会

中小企業景況調査報告書

平成 24 年 10 月～12 月期

[調査要領]

1. 調査対象

- (1) 対象地区 宮城県内 10 商工会地区
(調査対象商工会名) 名取市、大河原町、みやぎ仙台、利府松島、加美、遠田、若柳金成、みやぎ北上、石巻かほく、本吉唐桑
- (2) 対象企業数 150 企業
- (3) 回答企業数 150 企業

2. 調査対象期間

平成 24 年 10 月～12 月期を対象として、調査時点は平成 24 年 11 月 15 日とした。

3. 調査方法

- (1) 商工会の経営指導員による訪問面接調査。
- (2) 対象企業の抽出は、商工会に於いて、業種・規模等有意選定。

4. 回答企業内訳

業 種	企 業 数
製 造 業	34
建 設 業	24
小 売 業	43
サービス業	49
合 計	150

5. そ の 他

本報告書中の D I とは、ディフュージョン・インデックス(景気動向指数)の略で、各調査項目についての増加(上昇・好転)企業割合と減少(低下・悪化)企業割合の差を示すものである。

1. 県下産業全体の景況

県下商工会地区における今期(平成24年10月～12月)の調査において、産業全体の業況D Iは、前期より11.3ポイント低下し△32.8(前期△21.5)となり、23年7月～9月期以来最も低い数値となった。

宮城の景況は、震災復旧事業の展開に伴い、建設業は依然高水準で推移しているが、他の産業には弱めの動きが出ており、復興の流れに停滞感がみられた。

製造業は、中国との関係悪化などにより、全国的には売上(加工)額D Iを前期比3.9ポイント悪化させたが、宮城は26.6ポイントとより悪化幅が大きかった。

建設業は、地方交付税の支払遅延の影響等により、全国的には完成工事(請負工事)額D Iが2.8ポイント悪化し△13.1となり、宮城は16.7ポイントとより大きく悪化したものの20.8と全国より33.9ポイント高く震災復旧事業の影響が続いていることが窺えた。

小売業・サービス業の売上額D Iは、消費税増税等により消費マインドが低迷しているなか、全国、宮城ともに低下し、宮城の小売業は△51.2、サービス業は△38.8とより厳しい数値が示された。

(1) 主要景況項目のあらまし

① 売上額(完成工事額)の状況

売上額(完成工事額)D Iは全産業で悪化し、製造業においては26.6ポイント、建設業は16.7ポイント、小売業が4.8ポイント、サービス業は2.0ポイント、全産業D Iとしては△31.3(前期△20.7)と10.6ポイント悪化した。

② 採算の状況

採算D Iは、製造業において△41.1、小売業は△39.6、建設業が16.7、サービス業は△40.7となり、全産業D Iとしては△31.4(前期△25.3)と6.1ポイント悪化した。

③ 設備投資の状況

新規投資の実施比率は、製造業は29.4%で前期と比較し8.8ポイント、建設業は33.3%で前期と比較し16.6ポイント増加し、小売業は7.1%で9.2ポイント、サービス業は16.3%で4.1ポイント減少し、特に建設業の設備投資が積極的だった。

(2) 全国・東北ブロックおよび本県景況のあらまし

① 売上額（完成工事額）

売上額（完成工事額）D I は、景況感の悪化の影響が東北の製造業については 3.1 ポイントと小さかったが、宮城はマイナスの変動幅が 26.6 ポイントと影響が大きかった。小売業は復興需要が一巡したためか宮城の小売業は売上額D I が△51.2 であり、サービス業も△38.8 と全国、東北よりも低かった。

宮城の建設業は 20.8（前期 37.5）と 16.7 ポイント悪化したが、全国よりも 33.9 ポイント高く、依然として震災復興事業の影響が窺えた。

表一 売上額（完成工事額）の状況（前年同期比・D I）

区分 業種	全 国		東 北		宮 城	
	前 期	今 期	前 期	今 期	前 期	今 期
製 造 業	△ 23.2	△ 27.1	△ 20.8	△ 23.9	△ 5.8	△ 32.4
建 設 業	△ 10.3	△ 13.1	13.9	6.0	37.5	20.8
小 売 業	△ 44.2	△ 44.2	△ 30.9	△ 42.0	△ 46.4	△ 51.2
サービス業	△ 27.2	△ 33.5	△ 23.9	△ 30.9	△ 36.8	△ 38.8

② 採 算

採算D I は、全国と東北の製造業が同水準で推移したが、宮城は厳しさを増し、全国・東北を下回った。小売業の今期採算D I は全国・東北・宮城ともにほぼ同水準での推移となり、乖離幅は小さかった。サービス業は全国、東北が同水準で推移しているのに対し宮城は△40.7 と全国を 6.8 ポイント下回った。

宮城の建設業は採算D I が前期同様 16.7 であり全国を 42.9 ポイント上回った。

表二 採算の状況（前年同期比・D I）

区分 業種	全 国		東 北		宮 城	
	前 期	今 期	前 期	今 期	前 期	今 期
製 造 業	△ 25.9	△ 29.5	△ 25.1	△ 27.0	△ 32.4	△ 41.1
建 設 業	△ 25.4	△ 26.2	△ 9.3	△ 6.0	16.7	16.7
小 売 業	△ 40.5	△ 41.6	△ 33.0	△ 40.1	△ 39.5	△ 39.6
サービス業	△ 31.3	△ 33.9	△ 21.5	△ 32.6	△ 28.5	△ 40.7

(3) 今後の見通しについて

① 県下産業全般の主要項目来期見通し

売上額（完成工事額）D Iは前期における今期の見通しと比較すると建設業・小売業が好転、製造業・サービス業が悪化の見通しとなった。また、今期の実績と比較すると建設業のみが厳しく、その他の産業は期待感を持った見通しとなった。

採算D Iにおいても前期における今期の見通しと比較し小売業のみが好転、他の製造業・建設業・サービス業は悪化の見通しとなり、今期の実績と比較すると製造業・小売業は好転、建設業・サービス業は悪化の見通しとなった。

② 全国と本県企業の来期見通し比較

売上額（完成工事額）・採算D Iにおいて、前期における今期の見通しと比較し、全国は全ての産業が悪化傾向を示しており、宮城は建設業が横ばい、小売業が改善、製造業、サービス業が悪化となり、また、売上額（完成工事額）来期見通しD Iでは、全ての産業において宮城が全国を上回っており、採算D Iにおいては製造業が若干下回り、サービス業が大きく下回ると見通された。

※見通しD Iは前年同期と比較した予想値である。

表－3 売上額（完成工事額）来期見通し (D I)

区分 業種	全 国		宮 城	
	今 期	来 期	今 期	来 期
製 造 業	△ 19.0	△ 27.0	0.0	△ 15.1
建 設 業	△ 20.5	△ 23.3	△ 4.3	△ 4.2
小 売 業	△ 43.0	△ 44.5	△ 48.9	△ 39.5
サービス業	△ 28.2	△ 34.2	△ 25.0	△ 32.7

表－4 採算来期見通し (D I)

区分 業種	全 国		宮 城	
	今 期	来 期	今 期	来 期
製 造 業	△ 23.6	△ 28.3	△ 17.7	△ 29.4
建 設 業	△ 26.3	△ 27.8	4.1	0.0
小 売 業	△ 37.8	△ 38.9	△ 44.1	△ 37.3
サービス業	△ 28.5	△ 32.9	△ 29.2	△ 44.9

2. 県下産業別の景況

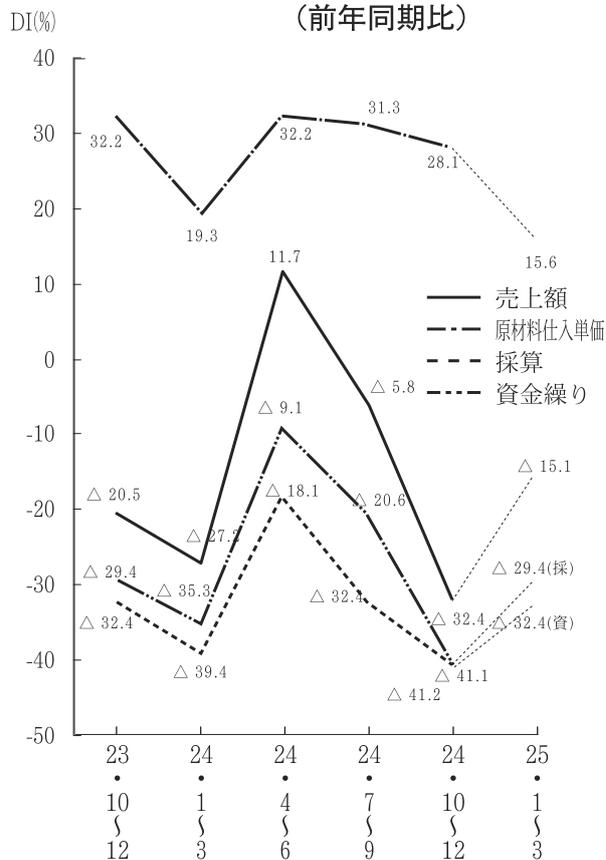
(1) 製造業の動向

① 主要景況項目から見たあらまし

前年同期比D Iは、売上（加工）額D Iが今期△32.4（前期△5.8）となり26.6ポイント、採算D Iも今期△41.1（前期△32.4）で8.7ポイント、資金繰りD Iも今期△41.2（前期△20.6）で20.6ポイント悪化した。

原材料仕入単価は28.1（前期31.3）と3.2ポイント改善はしているものの、原材料の高止まりが続いている。

図1-1 主要景況項目の推移
(前年同期比)



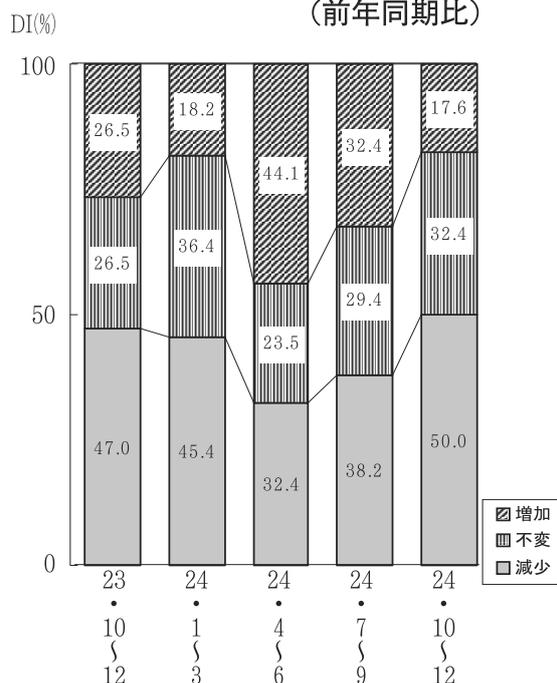
② 主要景況項目別状況

(a) 売上(加工)額

「上昇・好転」と回答した企業は、全体の17.6%（前期32.4%）と14.8ポイント減少し、「減少・悪化」と回答した企業は50.0%（前期38.2%）と11.8ポイント増加した。

結果として売上（加工）額D Iは△32.4（前期△5.8）となり前期比26.6ポイント悪化した。

図1-2 売上（加工）額の状況
(前年同期比)

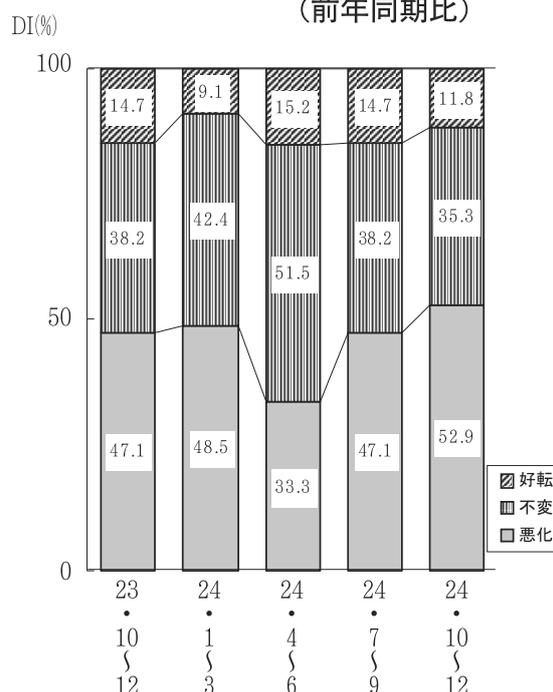


(b) 採 算

「上昇・好転」と回答した企業は全体の11.8%（前期14.7%）で2.9ポイント減少し、「減少・悪化」と回答した企業は52.9%（前期47.1%）で5.8ポイント増加した。

その結果、採算DIは△41.1（前期△32.4）となり前期比8.7ポイント悪化した。

図1-3 採算の状況
(前年同期比)



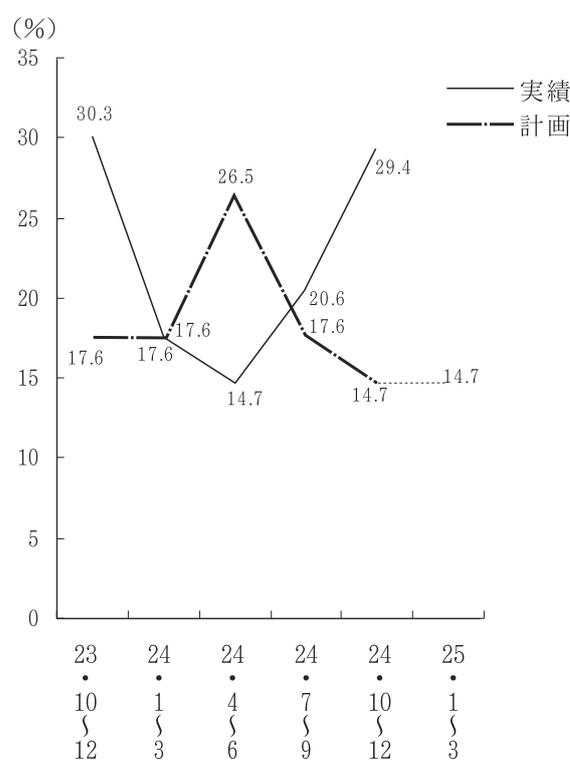
(c) 設 備 投 資

今期の新規投資実施企業割合は、全体の29.4%（前期20.6%）で8.8ポイント増加した。

その設備内容は生産設備、付帯施設、OA機器、その他であった。

来期に設備投資を計画している企業は、全体の14.7%で、その設備内容は土地、工場建物、生産設備、車両・運搬具、OA機器、その他となっている。

図1-4 設備投資の状況

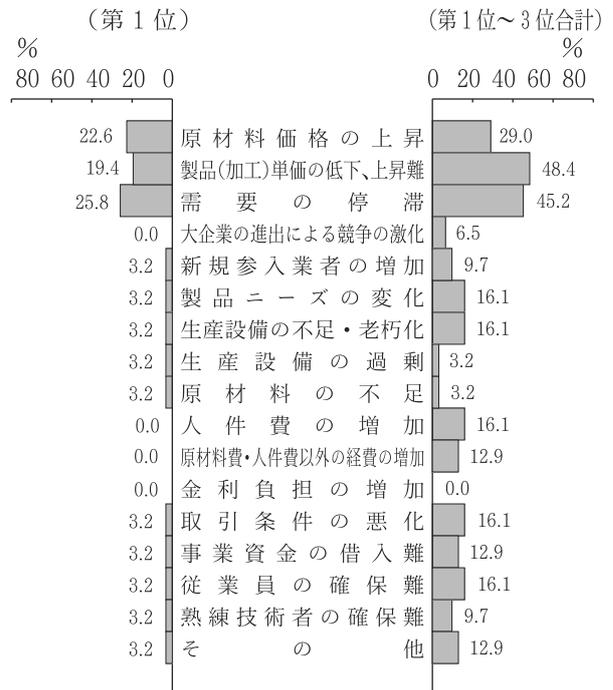


(d) 経営上の問題点

重要度第1位の問題点は、「需要の停滞」(25.8%)、次いで「原材料価格の上昇」(22.6%)、そして「製品(加工)単価の低下、上昇難」(19.4%)と続いた。

重要度第1位から第3位合計では、「製品(加工)単価の低下、上昇難」(48.4%(複数回答以下同じ))、次いで「需要の停滞」(45.2%)、「原材料価格の上昇」(29.0%)、そして「製品ニーズの変化」「生産設備の不足・老朽化」「生産設備の過剰」「原材料の不足」「人件費の増加」「原材料費・人件費以外の経費の増加」「金利負担の増加」「取引条件の悪化」「従業員の確保難」「人件費の増加」が16.1%で続いた。

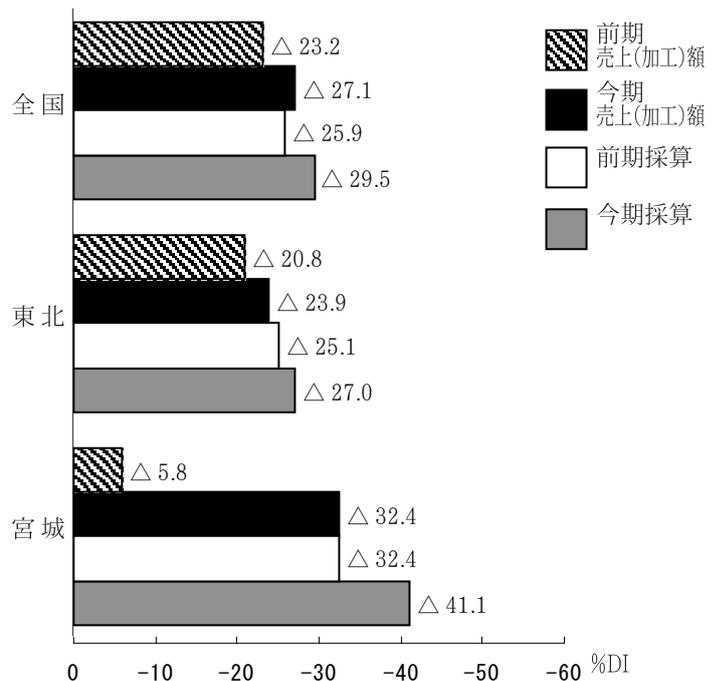
図1-5 経営上の問題点



③ 全国・東北ブロックと本県の景況比較

中国との関係悪化などから全国的に景況感が悪化している中、宮城の売上DIは前期・前々期と全国・東北を上回っていたが、今期は売上・採算DI共に全国・東北を下回った。本県回答事業者からは「仕事量はあるが短期のため残業・休日出勤により人件費がかさみ採算が悪化している」、「得意先の情報は具体性に欠け、今後については不安定な状況である」などのコメントが寄せられた。

図1-6 全国東北宮城売上(加工)額・採算比較



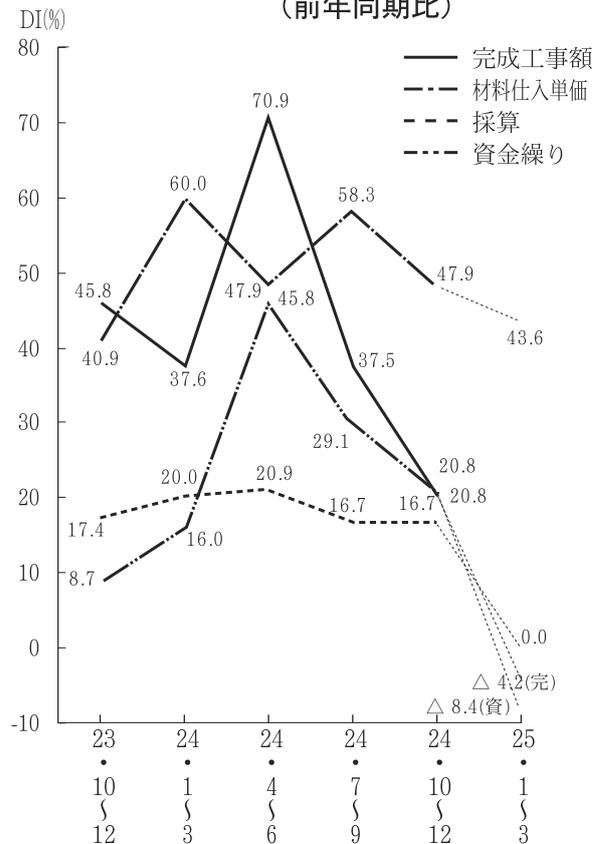
(2) 建設業の動向

① 主要景況項目から見たあらまし

採算D Iは前期同様16.7であったが、完成工事（請負工事）額D Iは20.8（前期37.5）で16.7ポイント悪化し、資金繰りD Iも20.8（前期29.1）と8.3ポイント悪化した。

懸念されている材料仕入単価D Iは47.9（前期58.3）で10.4ポイント好転したが高止まり感があり、復興需要による好況感は持続しているものの先行きに対しては不透明感が出始めている。

図2-1 主要景況項目の推移
(前年同期比)



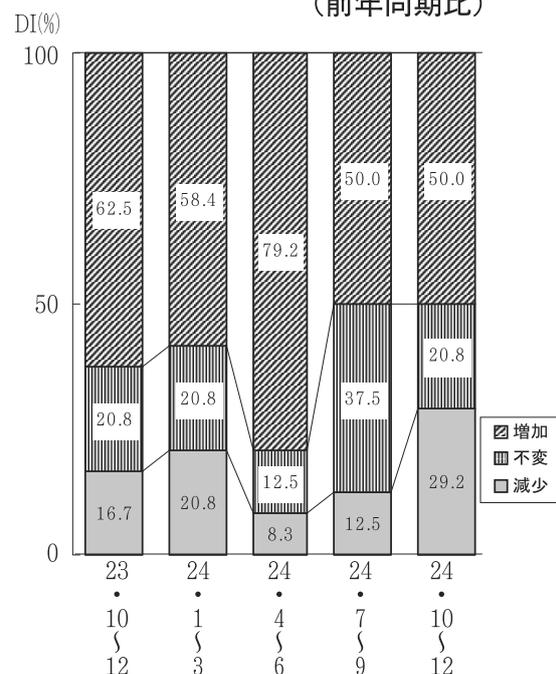
② 主要景況項目別状況

(a) 完成工事（請負工事）額

「上昇・好転」と回答した企業は前期同様全体の50.0%であり、「減少・悪化」と回答した企業は29.2%（前期12.5%）と16.7ポイント増加した。

その結果、完成工事（請負工事）額D Iは20.8（前期37.5）と16.7ポイント悪化した。

図2-2 完成工事額の状況
(前年同期比)

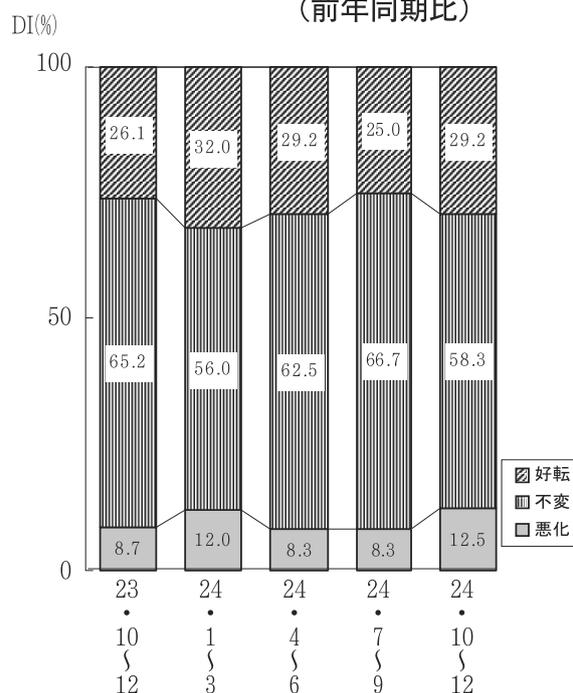


(b) 採 算

「上昇・好転」と回答した企業は全体の29.2%（前期25.0%）であり4.2ポイント増加し、「減少・悪化」と回答した企業は全体の12.5%（前期8.3%）で4.2ポイント増加した。

その結果、採算DIの変動はなく前期同様16.7となった。

図2-3 採算の状況
(前年同期比)



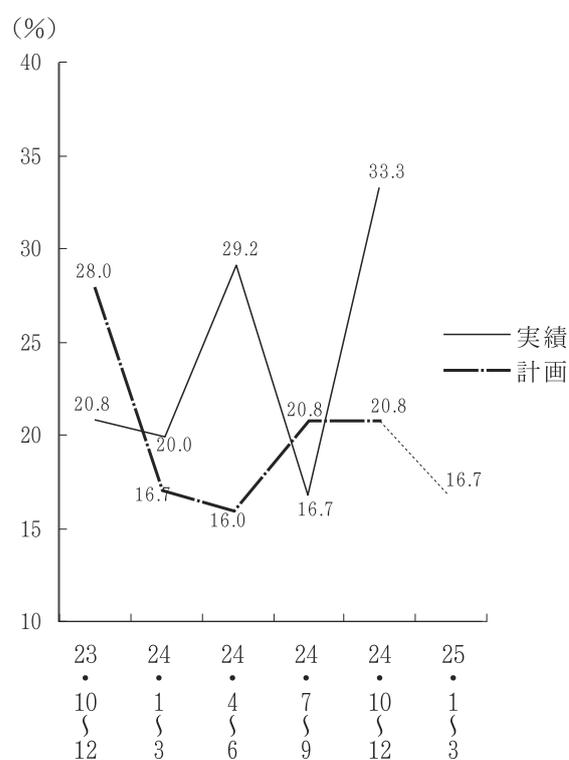
(c) 設 備 投 資

今期の新規投資実施企業割合は、全体の33.3%（前期16.7%）で16.6ポイント増加した。

その設備内容は建物、建設機械、車両・運搬具、付帯施設、OA機器、福利厚生施設、その他であった。

来期に設備投資を計画している企業は、全体の16.7%で、その設備内容は土地、建物、建設機械、車両・運搬具、付帯施設、OA機器となっている。

図2-4 設備投資の状況

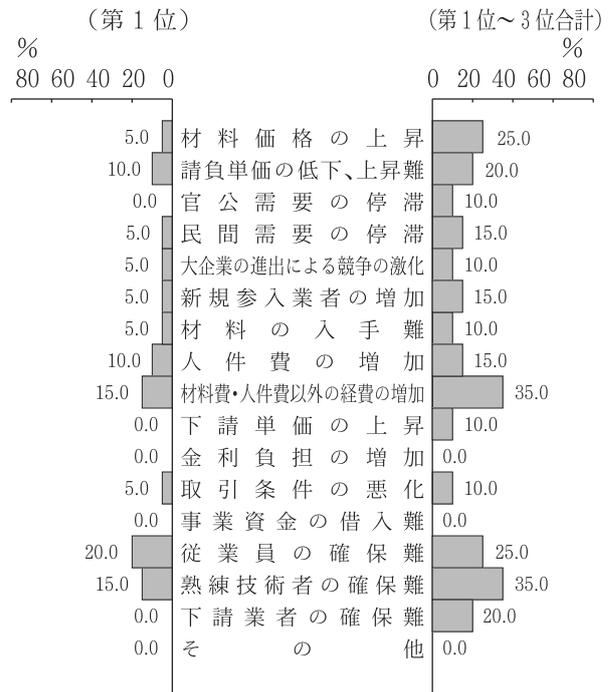


(d) 経営上の問題点

重要度第1位は、「従業員の確保難」(20.0%)、次いで「材料費・人件費以外の経費の増加」と「熟練技術者の確保難」が15.0%、「請負単価の低下、上昇難」と「人件費の増加」が10%とそれぞれ同率で続いた。

重要度第1位から第3位合計では、「材料費・人件費以外の経費の増加」と「熟練労働者の確保難」が同率の35.0%(複数回答以下同じ)と同率なり、次いで「従業員の確保難」と「材料価格の上昇」が25.0%と同率で続いた。

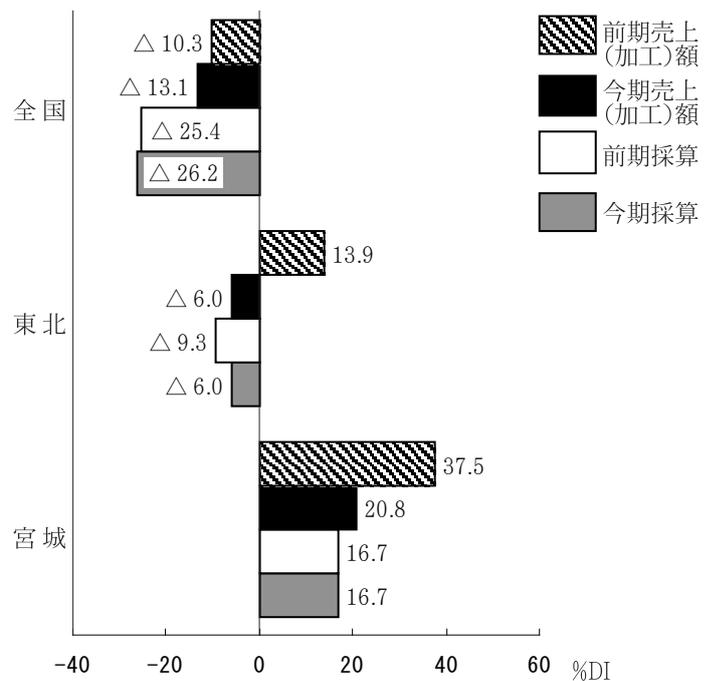
図2-5 経営上の問題点



③ 全国・東北ブロックと本県の景況比較

宮城は依然として復興需要が続き売上DI・採算DIともに全国、東北を上回っているが、震災後高水準に推移してきた宮城の完成工事(請負工事)額にも陰りが見られ、本県回答事業所からは「仮設住宅には現地再建も、移転もできない人が多くなりつつあり、需要も落ち着きつつある」、「ニーズが落ち着きつつあり、営業活動が必要になってきた」などのコメントが寄せられた。

図2-6 全国東北宮城売上完成工事額・採算比較



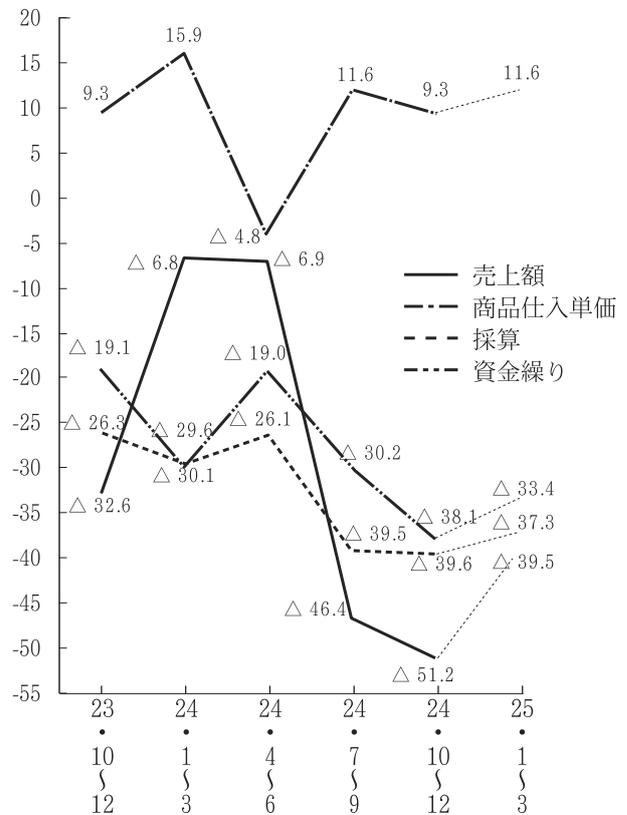
(3) 小売業の動向

① 主要景況項目から見たあらまし

売上額D Iは△51.2（前期△46.4）と 4.8ポイント、採算D Iも△39.6（前期△39.5）で0.1ポイント、資金繰りD Iは△38.1（前期△30.2）と7.9ポイント悪化した。

商品仕入単価D Iは9.3（前期 11.6）となり2.3ポイントとわずかながら好転した。

図3-1 主要景況項目の推移
(前年同期比)



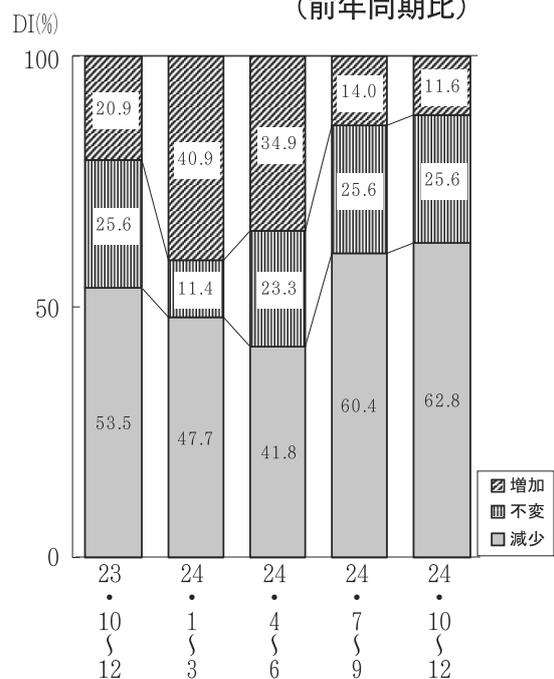
② 主要景況項目別状況

(a) 売上額

「上昇・好転」と回答した企業は全体の11.6%（前期14.0%）と2.4ポイント減少し、「減少・悪化」の回答は全体の62.8%（前期60.4%）と2.4ポイント増加した。

その結果、売上額D Iは△51.2（前期△46.4）と前期比4.8ポイント悪化した。

図3-2 売上額の状況
(前年同期比)

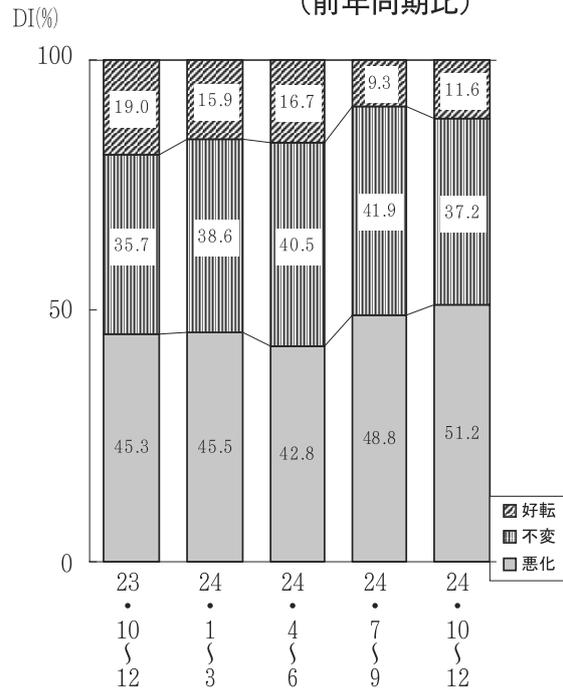


(b) 採 算

「上昇・好転」と回答した企業は全体の11.6%（前期9.3%）と2.3ポイント増加し、「悪化・低下」の回答も全体の51.2%（前期48.8%）で2.4ポイント増加した。

その結果、採算DIは、△39.6（前期△39.5）となり、前期比0.1ポイント悪化した。

図3-3 採算の状況
(前年同期比)



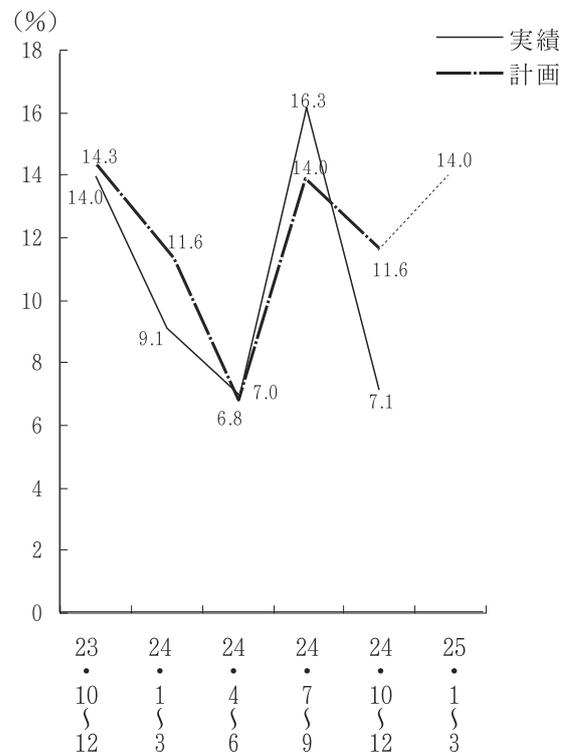
(c) 設 備 投 資

今期の新規投資実施企業割合は、全体の7.1%（前期16.3%）で、9.2ポイント減少した。

その設備内容は土地、店舗、販売設備、車両・運搬具、付帯施設、OA機器であった。

来期に設備計画している企業は14.0%で、その内容は土地、店舗、販売設備、車両・運搬具、付帯施設、OA機器、その他を想定している。

図3-4 設備投資の状況

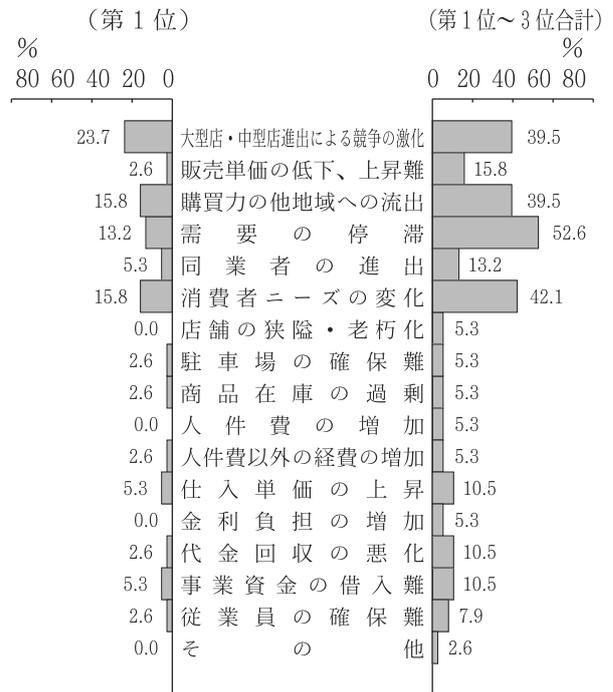


(d) 経営上の問題点

重要度第1位は、「大型店・中型店の進出による競争の激化」(23.7%)、次いで「購買力の他地域への流出」と「消費者ニーズの変化」が15.8%と同率で続いた。

重要度第1位から第3位合計では、「需要の停滞」(52.6%(複数回答以下同じ))次いで「消費者ニーズの変化」(42.1%)次いで「購買力の他地域への流出」と「大型店・中型店の進出による競争の激化」が39.5%と同率で続いた。

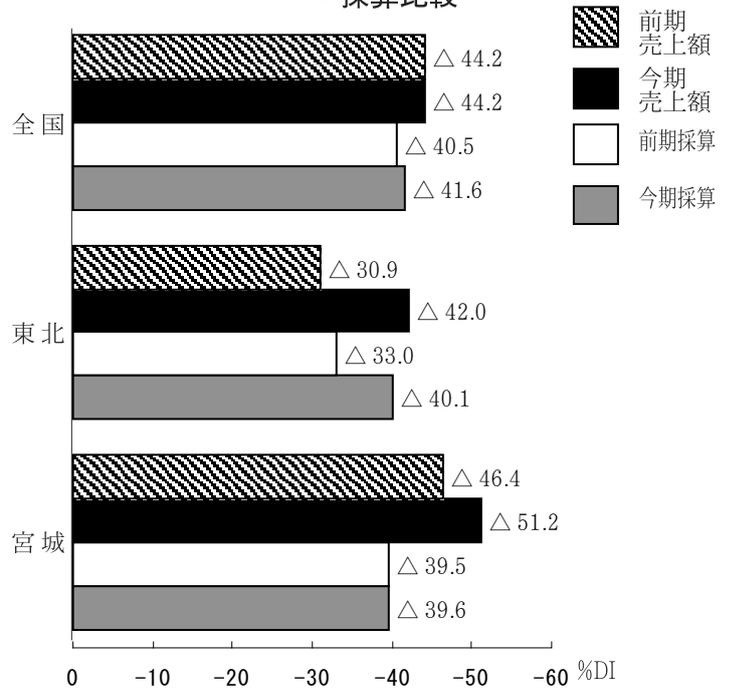
図3-5 経営上の問題点



③ 全国・東北ブロックと本県の景況比較

小売業は消費マインドの低迷により全国的に厳しい環境下にある中、今期の宮城は全国・東北に対し売上DIにおいて下回り、採算DIにおいて若干上回った。本県回答事業所から「震災特需も一段落、小売業は全般的に需要が停滞気味、在庫過剰となり利益が出ない」(靴専門店)、「風評被害は収まる気配もなく、いろいろな販売促進策を試行しているが先が見えない」(食料品小売)などのコメントが寄せられた。

図3-6 全国東北宮城売上額・採算比較

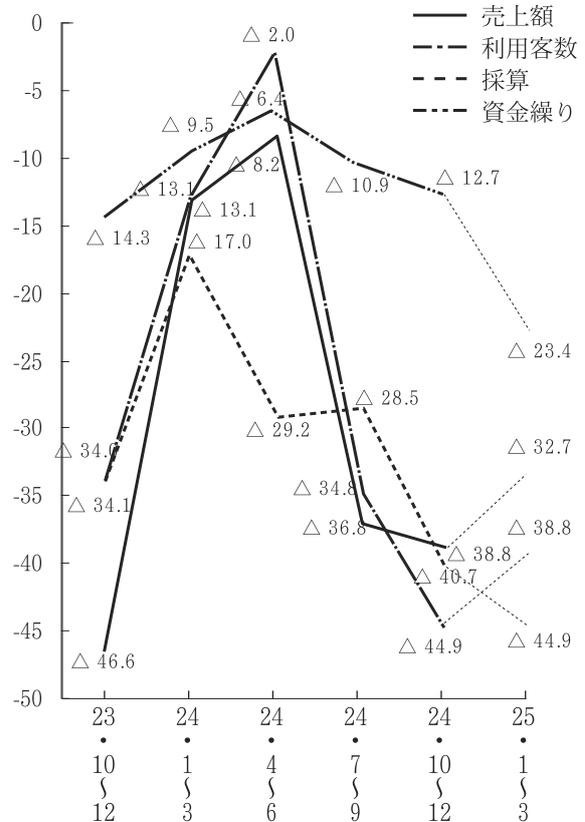


(4) サービス業の動向

①主要景況項目から見たあらまし

売上(収入)額D Iは△38.8(前期△36.8)で2.0ポイント、利用客数D Iは△44.9(前期△34.8)で10.1ポイント、採算D Iは△40.7(前期△28.5)と12.2ポイント、資金繰りD Iも△12.7(前期△10.9)と1.8ポイントとすべての項目が悪化した。

図4-1 主要景況項目の推移
(前年同期比)



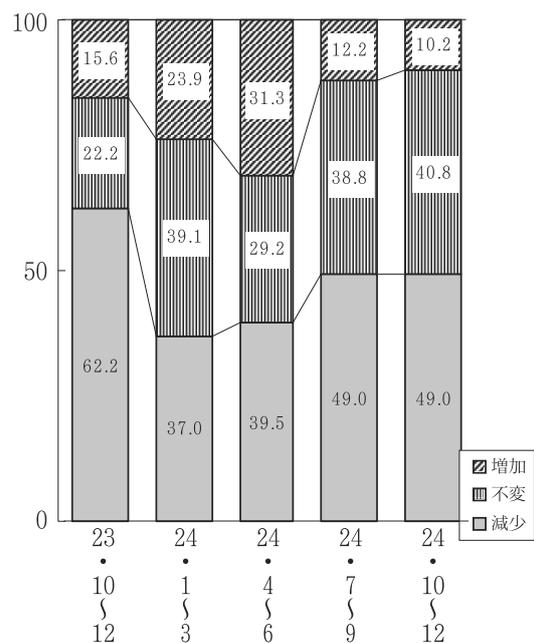
② 主要景況項目別状況

(a) 売上(収入)額

「上昇・好転」と回答した企業は全体の10.2%(前期12.2%)で2.0ポイント減少し、「減少・悪化」の回答は49.0%であり前期同様であった。

その結果、売上(収入)額D Iは△38.8(前期△36.8)で前期比2.0ポイント悪化した。

図4-2 売上(収入)額の状況
(前年同期比)

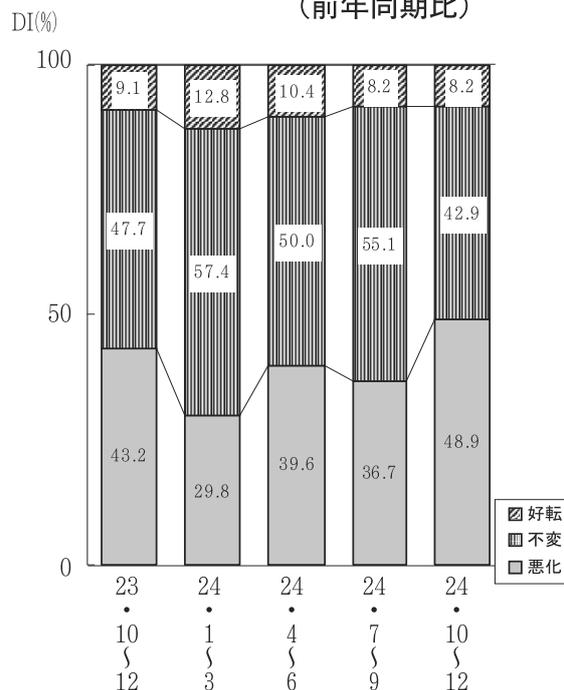


(b) 採 算

「好転・上昇」と回答した企業は全体の8.2%で前期同様であり、「低下・悪化」と回答した企業は48.9%(前期36.7%)と12.2ポイント増加した。

その結果、採算D Iは△40.7(前期△28.5)となり、前期比12.2ポイント悪化した。

図4-3 採算の状況
(前年同期比)



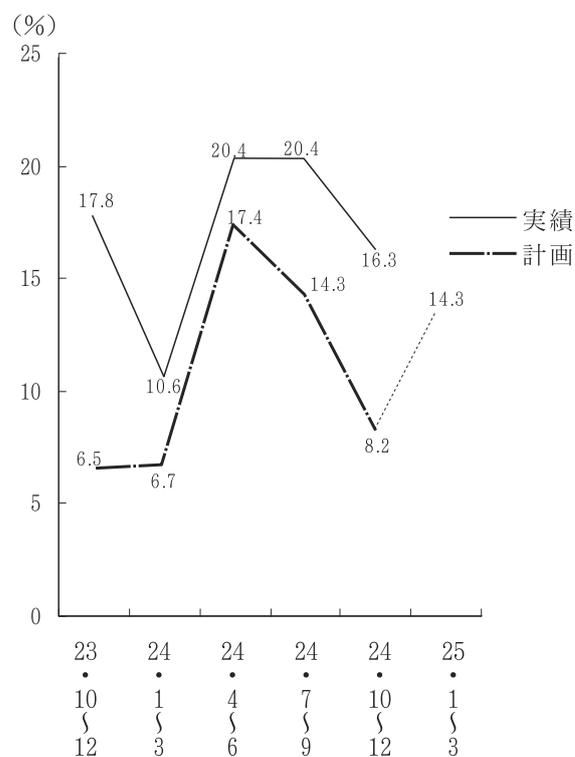
(c) 設 備 投 資

今期、新規投資を実施した企業は、全体の16.3%(前期20.4%)で4.1ポイント減少した。

その設備内容は建物、サービス、車両・運搬具、付帯施設、OA機器、その他であった。

来期に設備計画している企業割合は、14.3%であり、その内容は土地、建物、サービス、車両・運搬具、その他となっている。

図4-4 設備投資の状況

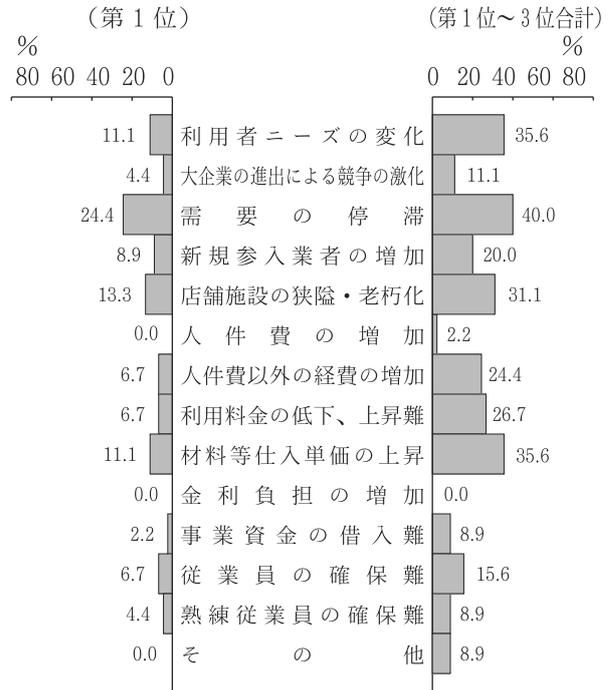


(d) 経営上の問題点

重要度第1位は、「需要の停滞」(24.4%)
次いで「店舗施設の狭隘・老朽化」(13.3%)、
そして「利用者ニーズの変化」と「材料仕
入単価の上昇」が11.1%と同率で続いた。

重要度第1位から第3位合計では、「需要
の停滞」(40.0%(複数回答以下同じ))次い
で、「利用者ニーズの変化」と「材料等仕入
単価の上昇」が35.6%と同率となり、「店
舗施設の狭隘化・老朽化」(31.1%)と続い
た。

図4-5 経営上の問題点



③ 全国・東北ブロックと本県の景況比較

宮城のサービス業は、若干改善傾向にあった採算DIも悪化し、今期は売上・採算DIともに全国・東北の水準を下回った。本県回答事業所からは「消費税値上げが可決されてからは特に低迷が続いている、年末シーズンに向けて不安が募る」(飲食業)、「店舗を移転開業し、新規顧客を開拓できたが、その効果を持続させるのが課題」(理容業)、「震災から1年半が経過し、一時の過熱した状況が落ち着き一気に不況感が漂う。人件費や設備投資の負担が厳しく感じられる」(宿泊業)等のコメントが寄せられた。

図4-6 全国東北宮城売上(収入)額・採算比較

